

保健医療



訪問団体 HSF (Health and Share Foundation 東北タイ・ウボンラチャタニー県)

団体概要 ラオスと国境を接するウボンラチャタニー県で活動する保健医療のNGO

活動案

■HIV陽性者支援を行う団体活動体験 <HIV陽性者の皆さんとワークショップ>

日本で報告されたHIV感染者とAIDS患者の累積数は2.5万件に達しています。しかし、HIV陽性者に対する支援はタイと比べ遅れているのが現状です。タイでは様々な活動を通して彼らを支援している病院やNGOがあります。

■タイの高校生と一緒に性教育ワークショップに参加

タイのNGOがLGBTsの皆さんと一緒に楽しみながら取り組める性教育講座を開催しています。タイの高校生も大盛り上がり。教える方も教えられる方も、恥ずかしがることなく話せるのがポイント。この性教育講座に参加することができます。

■LGBTsの皆さんとの本音トーク&交流

日本でもホット 이슈 になっているLGBTsに関する人権問題。日本でも13人に一人が性的少数派に入ると言われています。比較的受け入れられているタイ社会ではLGBTsの人たちはどのように生活しているのでしょうか？交流によって彼らの状況や悩み、チャレンジを聞くことは、日本で自分の周りにいる人たちとの接し方について考える機会となります。

<イメージ>



農業と食



訪問団体 SAFT (Sustainable Agriculture Foundation Thailand バンコク近郊)

団体概要

農村と都市での持続可能な農業の普及と食の安全保障を推進するタイのNGO。バンコクを中心に都市菜園に取り組む市民同士をつなぐネットワークを構築している。

活動案

■ 気候変動の影響を知るタイの農村生活体験

環境や生態系に配慮した農法を実践する農家を訪問します。近年の気候変動による影響や人々の食を支える農家のチャレンジとは?! タイの農村風景を楽しみながら、農家の皆さんと一緒にタイ料理作りも体験できます。

■ 都市と村が繋がる支援活動を学ぶ

コロナ禍でいち早く全国の社会的弱者へ食料支援を行ったグループから、タイの市民ネットワークの力を学ぶことができます。社会的弱者とはどんな人たちだったのでしょうか。持続的な生産と消費までもを考慮した人たちが、繋がることによって創ろうとしているのは食料支援だけではなく、持続的なまちづくりだったのです。

<イメージ>



貧困・教育



訪問団体 子どもの村学園 (中部・カンチャナブリー県)

団体概要 貧困、孤児、虐待などの理由で親と暮らせない子どもたちが共同生活する児童養護施設

活動案

■子どもたちへのインタビュー等を通して、教育格差の裏にある貧困問題を学習
タイも日本にも、孤児や虐待などの理由で親と暮らせなかったり、教育機会が奪われています。こうした子どもたちの教育格差の背景には貧困がありますが、貧困が子どもの教育に与える影響について学びます。子どもの村学園で暮らす子どもたちにインタビューを通じて、子どもたちが置かれているリアリティーに迫ります。

■子どもたちとの様々なアクティビティ
子どもの村学園で暮らす子どもたちと直接ふれあう時間を通して、「かわいそう」な対象ではなく、「同時代を生きる」者同士のかけがえのない時間をつくります。日本の食文化を紹介するお菓子作り教室、スポーツ交流、ダンス講習など、事前にアクティビティを準備して臨みます。

<イメージ>



移民・人権



訪問団体 FED (Foundation for Education and Development 南部・パンガー県)

団体概要

ミャンマーからの移住労働者やその家族・子どもを対象に、タイ人雇用主・ミャンマー人労働者双方の権利啓発と共に、労働災害時の医療支援、タイ社会で生きていけるようタイ語を含めた教育事業を展開するタイのNGO

活動案

■労働現場を視察

ビーチリゾートとして有名な南タイ。きらびやかなリゾートの経済を下支えするのは移民労働者の存在です。南タイではゴムのプランテーション農場、エビの養殖場、建設現場で働くミャンマー人労働者が多くいます。賃金体系や労働環境を実際に視察し、労働者にインタビューすることで過酷な労働環境を実感することができます。またFEDが運営するクリニックを訪問し、労働災害時の医療支援を学びます。

■子どもたちとの様々なアクティビティ

FEDが運営する教育施設を訪問し、「子どもたちの進学率は?」「学費はどうしているの?」など、ミャンマー人労働者の子どもたちが抱える教育課題を知ると共に、ミャンマー人労働者の子どもたちと交流する時間を設けます。日本の食文化を紹介するお菓子作り教室、スポーツ交流など、事前にアクティビティを準備して臨みます。

<イメージ>



環境保全

14

海の豊かさを
守ろう

11

住み続けられる
まちづくりを

訪問団体 Save Andaman Network (南部・トラン県)

団体概要

2004年のスマトラ島沖地震に伴う大津波でタイ南部6県が被災した。津波の被災者の支援を契機に生まれたタイのNGOで、復興プロセスと共に、海洋の環境保全やと資源保全などに取り組む。

活動案

■タイの海・クリーニング体験

海を守ることは、海の生物だけでなく、漁民を守ること、私たちの口に入る海の食を守ることにもなります。廃棄物の海への影響とそれを改善するために活動する団体を訪問し、実際にクリーニング作業を手伝います。

■マングローブ植林の現場視察

地域の小規模な漁業組合が長年おこなってきたマングローブ植林の活動は、2004年のスマトラ島沖地震に伴う大津波の際に防災として大きな効果を発揮しました。地道なマングローブ植林になぜ取り組んできたのか？、津波の被害がどれほど抑えられたのか、大災害からの復興の過程を追うと共に、日常の環境保全活動が村の復興にどのように影響したのかを住民に聞き取りをします。

<イメージ>



Save
Andaman
Network

住まいと人権



訪問団体 非正規労働者ネットワーク (バンコク近郊)

団体概要 非正規労働者の人権保護と生活サポートを行うタイのNGOのネットワーク

活動案

■非正規労働者の実情にせまる

急速に経済発展しているバンコクでは、非正規労働者の労働力が不可欠となっています。建設業、バイクタクシー運転手、内職、日雇いなど生活保障に不安を抱えながら生きている人々がいます。当事者から直接話を聞くことで、同様の課題を抱える日本社会で私たちが何をすべきか、考えるヒントとなるでしょう。

■都市スラムにおける住民参加型コミュニティ

スラムと言われる人口密集地帯で暮らす住民にインタビュー。住まいの保障、住環境の改善、家族や子どもの教育など、住民とNGOの協働のプロセスを聞きながら、「そもそもなぜスラムが形成されたのか」、経済成長の影にフォーカスし、その背景に迫ります。

<イメージ>



エコシステム

11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



訪問団体 Ecological Alert and Recovery -Thailand (バンコク近郊)

団体概要 環境汚染に関する調査や産業政策への政策提言、有害廃棄物マネジメントをおこなうタイのNGO

活動案

■ 廃棄物汚染と再利用について学ぶ

日本で処理しきれなくなった廃棄物の一部がタイに輸出されていることを知っていますか？そのために被害にあっているタイの人たちがいるという現実を知って、生産と消費のあり方について考えます。

■ 身近な取組みとして循環型のエコシステムをつくる

大量の生活ゴミを排出する大都市バンコクで、都市の住民が生活に取り入れられる取組みとして、生ゴミのたい肥化を始めました。都市でたい肥づくりに取り組む住民を訪問し、たい肥づくりも体験。循環型のエコシステムについて学びます。

<イメージ>



8つの特色

1. 急速に多様化・国際化する社会で新たに生まれる社会課題を先取り
2. 課題解決の実践者・当事者が講師陣
3. リアルな「声」が聞ける内容＋ワークショップ
4. 日本とタイの状況を比較しながら探究できる学習内容
5. 充実した事前学習 | 対面／オンラインを組み合わせたハイブリッド型
6. 社会課題を「ひとつごと」から「じぶんごと」にできる気づきの提供
7. 自分の中の「ふつう」を揺さぶる体験価値の提供
8. 徹底した安全対策（新型コロナウイルス対策含む）

PLCの強み

*すべてのプログラムにおいて、一方的な活動視察ではなく、その活動に関わる実践者と直接の対話と意見交換ができます。

*各団体と長年、活動経験を共にしてきたスタッフがファシリテーションと通訳を担います。プライベートに踏み込むセンシティブな内容でも話し合うことができます。

**現地での地理を熟知しております
ので、適切な移動手段（車両の
選択）、現地視察中の昼食（衛
生面・アレルギーへの配慮）、前
後泊の手配も柔軟に対応可能。**



お問合せ

合同会社PLC

Email; info@p-nong.net

Website; <https://p-nong.net>
